

経営比較分析表（令和元年度決算）

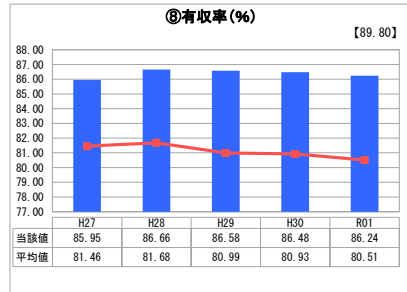
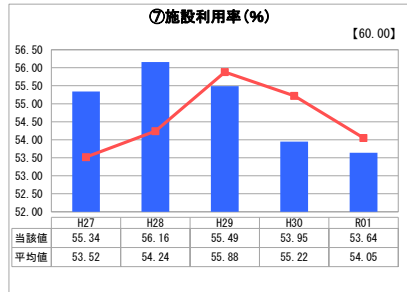
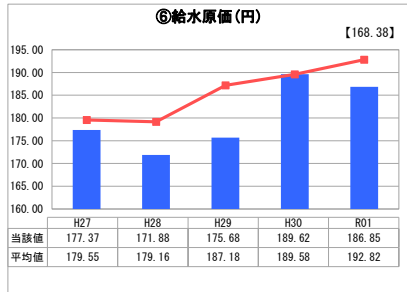
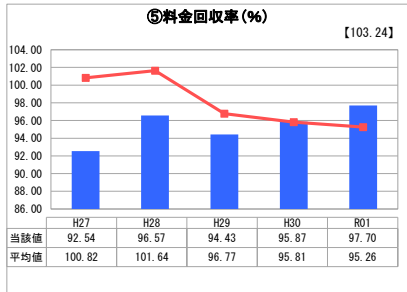
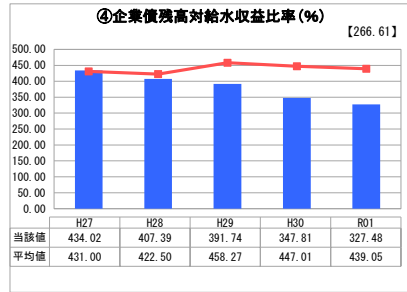
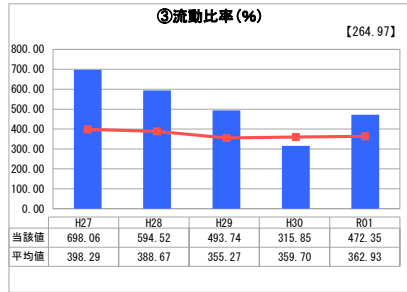
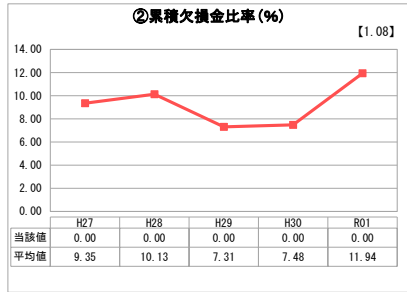
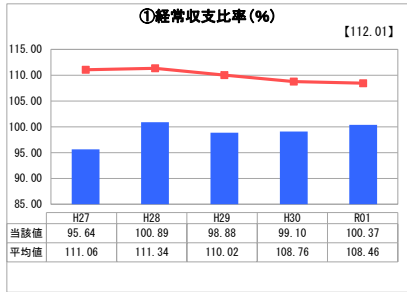
福岡県 鞍手町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	62.25	88.26	3,018	

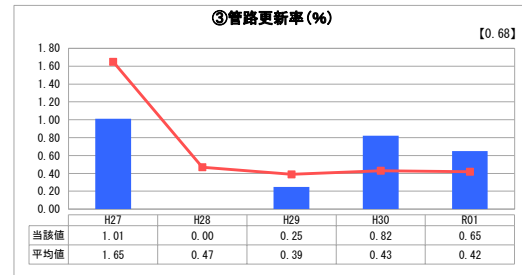
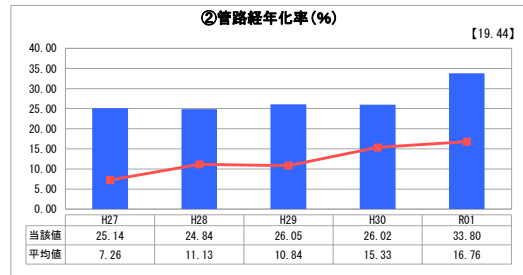
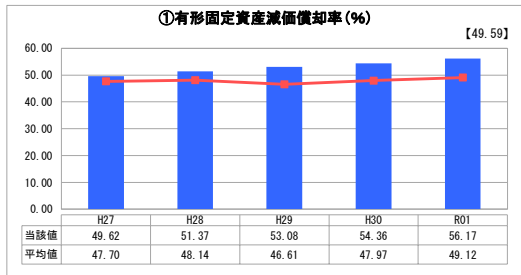
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
15,853	35.60	445.31
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
13,929	34.95	398.54

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率
給水量の減少、施設老朽化による修繕費が増加しているが、大規模修繕が減少したため100%を上回った。安定経営に向けた経費見直し等の改善が必要である。
- ②累積欠損比率
未処分利益平均値により相殺されているため発生していないが、引き続き発生しないように努める必要がある。
- ③流動比率
地方債償還額のピークが続くR4年度までは厳しい状態が続くが、その後は改善する見通しである。
- ④企業債残高対給水収益比率
H23年の浄水場改良以来、新規の借入はなく低下傾向である。
- ⑤料金回収率
昨年度より全国平均を超えているが、引き続き経費の見直し等の改善が必要である。
- ⑥給水原価
大規模修繕の減少により今年度は、平均値以下であるが、引き続き経費の見直し等が必要である。
- ⑦施設利用率
人口減少や節水意識の高まり等により配水量が減少しているため、利用率も低下している。施設の統廃合やダウンサイジングの検討が必要である。
- ⑧有収率
類似団体平均は上回っているが、100%に近づけるためには改善が必要である。

2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率
管路以外の機械等の中には耐用年数を超えて稼働しているものがあるため、償却率が類似団体平均より高くなっている。
- ②管路経年化率
開設時に布設した配水管に小口径のビニール管が多く存在しているため、類似団体平均に比べて高くなっている。
- ③管路更新率
類似団体平均を上回ったが、今後も計画的な更新が必要である。現在は口径75以上の配水管の更新を主に実施している。今後は、浄水場等の施設や小口径の配水管等をいかに計画的に更新していくかが課題である。

全体総括

今後も施設の老朽化が進んでいくため、更新に係る費用と経営状況を把握しながら、健全性及び効率性を維持し、計画的に施設更新を進めていく必要がある。